

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201265		
法人名	株式会社 サワライズ		
事業所名	グループホーム あたご桜花		
所在地	福岡市西区愛宕2丁目19-6		
自己評価作成日	平成22年9月19日	評価結果確定日	平成22年11月22日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院が開設した施設として協力体制が十分に取れており、他の医療機関とも連携が取れている。また、施設課長が看護師として常勤しオンコール体制が取れており、安心して生活できるよう支援している。街の中にある施設として、交通の便が良くご家族が来訪しやすい。ショッピングセンターが近く、隣接している保育園の園児と利用者との交流も定期的に行っている。ご家族や地域の方と協力して外出や行事、勉強会も実施して連携が取れている。職員のスキルアップを目標に、福岡市認知症実践者研修やリーダー研修に段階的に職員を参加させ、毎月勉強会や外部講師による講習会を開いている。利用者一人一人の要望や声に耳を傾け、その人の持てる力を発揮してもらう事で生き生きと生活できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

総合病院が開設した事業所であり、法人全体での研修、指導体制、就労環境の整備と職員の定着率、IT活動等の社会的活動への取組みがある。協力病院との連携は言うまでもないが、さらに上回るのが家族との連携の良さである。外部評価の利用者アンケートは回収率100%であり、昨年からの自宅復帰支援は3件となった。また、開設以来の利用者の多くがADLを維持している事にも驚かされる。自立支援に向けての取組みや、毎年恒例のバスマイクは家族と一緒にの大イベントとして、利用者の生活への意欲や家族の在宅復帰へのモチベーションをあげているように思われた。また職員、利用者ともに男女半々の比率であることも好評で、男性待機者も多いとのことである。今後とも家族や地域とともに「あたご桜花」ならではの展開を大いに期待する。

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: あたご棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症の方が住みなれた地域の中で、ともに命をいつくしみ、人間らしく、自立した生活を安全に営むことができるよう、心をこめて支援いたします。」という理念を作り、掲示して職員間で共有して実践している。	開設にあたり、職員全員で協議し独自の理念を作り上げた。「認知症の方が住みなれた地域の中で、ともに命をいつくしみ、人間らしく、自立した生活を安全に営むことができるよう、心をこめて支援いたします。」を理念とし、在宅復帰の支援事例が見られた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や子供会の廃品回収・地域フェスタに利用者と一緒に参加している。また、隣接している保育園とは日常的な付き合いができており、散歩の際にお互いに挨拶を交わす等交流ができています。	地域行事やホーム行事(バザー)、保育園やボランティア受け入れ等、地域住民との相互交流の機会を確保している。また、町内の子ども会の廃品回収の参加や、散歩時の挨拶等、日常的なかかわりを通じて親交を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の際に、地域の高齢者の情報や相談を聞いている。また、勉強会には地域の人々にも参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や利用者・職員の状況を報告し、意見交換を行っている。また、外部評価の結果は必ず報告し、地域の協力を求めている。	民生委員、町内会長、副会長、いきいきセンター職員、自治会長、保健師等の有識者の参加のもと2か月ごとに開催している。会議では、事業所と利用者の近況報告や災害対策、いきいきセンター職員への質疑応答や勉強会等、活発な情報提供や意見交換がなされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議や勉強会を通して、市役所や区役所の担当者・地域包括支援センターの方と密に連携を取っており、何かあれば相談している。	運営推進会議へのいきいきセンター職員の参加や、行政担当者に、サービスに関する質問や相談等を行っている。また、市民講座からの講師招聘や市主催の研修への参加等、連携の機会を確保できるように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待の勉強会を通して、身体拘束についても職員全員で考える機会を設け、身体拘束のないケアを実践している。玄関にはセンサーを設置し、日中は開錠している。	施錠やベッド柵に限らず、スピーチロック、行動制限等について意識し、職員会議等で協議や学習する機会を確保している。ケア全般において、安易に判断することなくプロセスを重視し、環境整備等も含めて、利用者の自由と安全を守る為の支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会を通して、職員全員で虐待について考える機会を設けて、虐待防止の徹底に努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	区役所といきいきセンターの担当者による権利擁護についての勉強会を設けて学んでいる。また、地域の方や家族にも参加してもらっている。実際に利用者で成年後見制度を活用している人がいる。	法人全体研修への参加と同時に、ホーム内での勉強会を通じて、制度の理解と普及に努めている。本年は運営推進会議時にいきいきセンター職員から、制度の概要と利用手順等についての説明の機会が設けられた。昨年の外部評価を受けての改善項目である。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず事前に面談をし、契約書や重要事項説明書等の十分な説明を行い、理解を得ている。また、ご家族や利用者のお話も十分聞いている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見や不満等については、常に耳を傾け、ミーティング等で話し合い改善に努めている。契約書や重要事項説明書に内部・外部の苦情の窓口を記載し、説明している。また、苦情受付担当を決め苦情箱を設置している。	日常的なかかわりや、運営推進会議、面会等を利用して、意見や思いの表出に努めている。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討した後に回答するなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別の面談、懇親会等で意見や提案を聞く機会を設けている。	年に2回個人面談を実施し、各職員から直接意見を聴く機会を確保している。ミーティング時にも、意見を出す時間を設け、出された提案についてはその場の協議や、管理者並びに法人から回答するようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や個人面談を行い、業務目標を設定してもらい評価を行う事で、向上心を持って働けるように努めている。職員の資格取得をバックアップし、資格手当を付ける等環境の整備に努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢性別不問で募集を行っている。積極的に研修に参加してもらい、資格取得等希望があれば勤務の調節を行っている。	採用の際、年齢や性別、経験等の制限は設けていない。資格についても制限は設けていないが、多くの職員が介護福祉士や介護支援専門員等の試験に合格しており、現在の有資格率は大変高い。勤務調整や資格手当、食事補助等、働きやすい環境づくりへの配慮も職員の定着率に反映されていた。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の講師を招き、勉強会を通して人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	地域の人権学習への参加に加えて、法人全体研修や事業所内でも講師を招聘し、勉強会を開催するなど、高齢者や福祉に限らず、幅広いテーマにおいての人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は、育成マニュアルに添って教育指導している。また、年間の研修計画を作成し、毎月勉強会を開いている。市の実践者研修やリーダー研修等段階に応じて受講してもらっている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	分からない事あれば他の施設に問い合わせをしたり、研修機会等に情報交換をしている。当施設の勉強会時他の施設にも声かけをし参加してもらっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護計画書を作成する際には必ずアセスメントを行い、要望等に耳を傾け日常生活の支援に活かしている。入居前には必ずご本人との面談の機会を設け、利用者の把握に努めている。また、事前の見学も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画書を作成する際には必ずアセスメントを行い、家族の要望等に耳を傾け日常生活の支援に活かしている。入居前には必ずご家族との面談の機会を設け、関係作りに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を通して、必要としている支援を見極めている。必要であれば、他のサービスも利用する用意がある。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や掃除等の家事を通して利用者から学んだり、外出や行事を職員と共に行動で、支えあう関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にお便りを送ったり、来訪時に利用者の日常の様子を報告し、ご家族の意見を聞いている。勉強会や行事・地域運営推進会議等への参加を働きかけ、共に本人を支えていく関係を築いている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅に一緒に行ったり、知人の方が来訪された時には、面会をして頂いている。また、馴染みの人との手紙のやり取りや電話の支援もしている。	併設するデイサービスを利用している待機や自宅復帰支援等、多機能性を活用しながら、馴染みの関係が継続できる様に支援している。ホームの中でも書道等の趣味活動の継続やいきつけの理美容室の利用等、家族と連携した支援が行われている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考えてテーブルの席替えをしたり、一緒に手伝いをしてもらっている。また、体操や散歩・行事等に一緒に参加してもらおう事で、孤立する事なく利用者同士の関係を築いていけるよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰してデイサービスを利用している利用者や家族とは、関係を断つ事なく相談や支援に努めている。また、他の利用者には他施設への紹介等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書を作成する際には必ずアセスメントを行い、希望や意向の把握に努めている。就寝時間は本人の希望に合わせ、同性介助も行っている。	利用者毎の詳細な支援記録に加えて、センター方式を採用し、利用者一人ひとりの希望や家族の意向の把握に努めている。カンファレンスにて職員全員で情報提供や周知を行い、介護計画書へ反映させ、思いや意向に沿って支援している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に暮らしの情報シートに記入してもらい、生活歴やサービス利用の経過等に努めている。また、介護計画書を作成する際に必ずアセスメントを行い、把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	セルフケアチェック表や毎月のミーティングの時に、各利用者の状態を情報交換する等して把握するようにしている。細かい変化があれば、個人記録や申し送りノートを活用し、情報を共有するようにしている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見を聞き、医療関係者や職員と相談し、介護計画書を作成している。	毎日の申し送りや随時のケアカンファレンスにて、利用者の情報交換や支援手順の確認等を行い記録している。定期的にモニタリング・評価・見直しを行い、心身状況に変化が生じた際もその都度、関係者で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を具体的に個別記録や申し送りノートに記入し、情報を共有する事で介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の医療機関の受診付き添いにヘルパーを依頼したり、ショートステイの受け入れを実施している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域フェスタに参加したり、近隣の商店街やスーパーに買い物に行ったり郵便局に同行したり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある利用者には、かかりつけ医に往診を依頼したり、家族の付き添いのもと継続して受診できるように支援している。また、内科の往診や皮膚科・歯科・精神科の往診を定期的に支援している。	医療機関は本人、家族が選択し、緊急対応、受診、往診、相談や助言等、利用者の状況等に応じて家族と連携して支援している。病院受診時に情報提供できるような書面作成や、認知症専門医の受診、往診等においても適切かつ円滑に支援されていた。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設課長が看護師として常勤し、日常の健康管理や医療活用を支援している。また、利用者の状態に少しでも変化があれば看護師に報告し、必要であれば病院への受診を支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している病院と情報交換や相談を行い、入退院の対応に努めている。また、入院時は必ず情報提供書にて利用者の状態を連絡している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に合わせてこまめに医師や家族と話し合い、方針を決定して全員で統一して対応をしている。医師や家族の協力のもと入院や他施設に転居されるまで対応した実績があり、看取りの指針を策定している。	重度化の支援について事業所として可能な対応や、医療機関への移行基準等を事業所の方針として説明している。自宅への復帰も含めて、利用者及び家族の意向は、契約時やセンター方式等に記録し、関係者で方針や情報を共有し支援している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応ができるように、定期的に救命講習に参加している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し、地域運営推進会議で地域の方に報告し、協力をお願いしている。	年2回の避難訓練及び自主訓練が実施されている。非常災害時の協力体制については運営推進会議でも協議され、地域への協力依頼を行っている。	現在夜間を想定した避難訓練を計画されています。夜間の避難経路や手順の周知はリスク回避の手段として最も重要な対策の一つであると思われます。被災の多くが夜間帯である事も鑑みて更なる取組みを大いに期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気が付いた時には、職員間で注意し合っている。	言葉遣いや対応については、勉強会やその都度の指導がなされており、性別を問わず利用者に対する優しい表現での言葉かけや接し方への配慮がみられた。個人情報保護規程を設け、個人記録等の一括管理や漏洩の防止に努めるなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で一つ一つ本人の希望や意見を確認しながら、希望があれば散歩や買い物に行ったり、できる限り支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者のペースに合わせて、入浴や食事・起床・就寝時間等を変更している。また、体操を休んでゆっくりして頂いたり、外出や買い物の付き添いをしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容に来てもらったり、希望があればご家族と一緒に馴染みの店に行ってもらっている。また、その人らしいお洒落ができるよう洋服や化粧品等の買い物も支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下や咀嚼の低下がある利用者には、お粥や副食を刻んで提供したり、水分にはトロミを使用している。苦手な献立の時には、個別に献立を変更している。また、毎食時調理や後片付けをしてもらっている。	管理者(看護師)が献立し、食材の調達、準備、調理、賞味、片付け等を、利用者と職員が協力して行い、「自分で食べられる」支援に重きを置いている。また、職員と利用者が同じ食事を楽しめる様に、職員への食事代の補助等の支援も見られた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の利用者には、食事量や糖分を加減している。栄養バランスに考慮した献立を施設課長が作成している。また、時間を決めて定期的に水分補給を行う事で、脱水を防いでいる。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせて、歯磨きの声かけや介助を行い、ポリデントで消毒も行っている。また、必要な方には訪問歯科の往診や歯科衛生士による口腔ケアを支援している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握する事で、早めに声かけをする等支援している。利用者の状態に合わせて、日中は布パンツ・夜間はり八ピリパンツを使用したり、パットを昼用・夜用と使い分けて支援している。	利用者毎の排泄パターンや介助方法の手順書を作成し、介護計画書に反映させ自立にむけて支援している。この過程を経てオムツから、トイレでの排泄等の自立支援が見られた。また、介助時には、利用者間の尊厳やプライバシーにも十分配慮するように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時寒天や乳製品・食物繊維の多い食材を提供している。また、体操や散歩への働きかけも行っている。便秘の利用者には、施設課長(看護師)の指示のもと下剤の調節をしている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お好きな日に入浴できるように、毎日入浴を行っている。また、希望に合わせて入る時間を調整したり、同性介助を行ったり工夫している。	毎日入浴できるように準備し、最低でも週3回は、定期的に清潔保持の機会を確保している。皮膚科の受診と同時に皮膚状態のケアに取り組んでおり、個別の軟膏塗布や、入浴しない日のスキンケア等、細やかに支援されていた。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者が個室で安眠できるようにしている。また、季節毎にエアコン・加湿器による室温や湿度・寝具調節を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更がある時には、申し送りノートや受診記録を活用して情報を共有している。受診記録にお薬説明書を綴じていつでも確認できるようにしている。また、服薬後に異常があれば施設課長(看護師)に報告している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々能力に合わせてお手伝いをしてもらったり、好きなテレビを観てもらったり、仲良しの利用者とお話してもらったりしている。また、希望があれば買い物や散歩等支援している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添って、散歩に行ったり買い物に行く等支援している。希望時には、馴染みの神社に初詣に行ったり、ご家族の入院のお見舞いに付き添ったり支援している。家族や地域の方と協力して、バスハイクや外食等行っている。	日常的な買物等に加えて、定期的に外出を計画している。特にバスハイクは、メリット・リスク回避等を十分に検討し、家族と外出を楽しめるイベントとして毎年実施している。この支援は利用者の生活への意欲や身体能力の維持や向上、家族との関係性の充実等にも反映されているように思われた。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替えによる支払いをしているが、利用者の状態によりご家族の了解があれば、ご自分でお金を所持し、買い物時支払いをもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば職員がダイヤルを回している。手紙のやり取りをしている利用者には、郵便局へ一緒にはがきや切手を買いに行ったり、投函に行ったり支援している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や照明の明るさ・日差しの調節等配慮している。季節毎に壁飾りを替えたり、テーブルや洗面所に花を飾ったり、工夫して居心地の良い空間作りに努めている。	天窓から、自然光を採り入れ全体的に明るく、ゆったりと過ごせる空間となっている。中庭を囲むように、リビングと居室があり、気軽に外気に触れる事ができる。駐車場も兼ねた敷地は広く、樹木も繁り、街中でも自然に触れながら気分転換できるようなつくりとなっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルで気の合う利用者同士で話をしてもらったり、自由に過ごしてもらっている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族や利用者と相談し、馴染みの家具や食器類を持参してもらう事で、安心して過ごしてもらえるようにしているまた、。家族の写真を飾っている利用者もいる。	居室は和室(畳スペース)と、洋室があり、収納スペースも含めて全体的に広く、落ち着いた雰囲気づくりとなっている。寝具や調度品、写真、仏壇等、利用者にとって馴染みの物が持ち込まれ、安全かつ居心地良く過ごせるように配置されていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下等に手すりを設置し、自立した生活が送れるように工夫している。入浴は、シャワーチェアやバスボードを使用し、安全に配慮している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. 2010/11/22			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			